

早期に良質茎を確保し、収量・品質を高めましょう！

1. 田植えのポイント

(1) 健苗育成・好天日田植・水管理の徹底に心がけ、初期生育の確保を行いましょう！

※6月に入っての田植えは十分な生育量が確保できず収量が低下します。
収量確保のためにも、5月末までには田植えを終えましょう。

◎エコ・5-5栽培コシヒカリは、5月10日以降の田植えが要件です！

※特認制度の申請をされる場合は、申請期間内【5月1日～5月4日】に申請書の提出をお願いします。詳しくは各営農センターにご相談ください。

(2) 栽植株数はコシヒカリ50株/坪（茎数確保が難しい地域や6月田植えは60株/坪）、こしいぶき等の早生品種、多収性品種は60株以上/坪が目安です。

(3) 植込本数は、3～4本/株、植付深さは3cmとします。

◎多苗植え・深植えは厳禁！！

田植前には必ず、機械の植付深さ等を確認しましょう！

※多苗植えは茎が細く、根は浅く倒伏しやすくなります。
※深植えすると、新根や分げつの発生が抑制されます。

(4) 箱施用剤の施用 <<長岡地区>>

エコ・5-5での使用可能品種	適用害虫名	使用薬剤	使用量	使用方法	使用時期
わたぼうし新之助以外の品種	イネオムシ(フタホヒコヤカ) イネミスゾウムシ幼虫 イネトノカイ カメイチユ等	ゼロカウント粒剤	50g/箱 ※高密度播種の場合は1kg/10a(50~100g/箱)	箱上均一散布	播種時覆土前～移植当日
わたぼうし新之助	いもち病等 イネオムシ(フタホヒコヤカ) イネミスゾウムシ イネトノカイ カメイチユ、イコ類 イネハエ等	GP.オリゼリディア箱粒剤	50g/箱	箱上均一散布	緑化期～移植当日
			※高密度播種の場合は1kg/10a(50~100g/箱)		移植3日前～移植当日
			※1kg/10a	側条施用	移植時

※J A 育苗センターやJ A 硬化苗受託者から苗を購入した方は、移植前に箱施用剤の散布はしないでください。(箱施用剤散布済みの為)

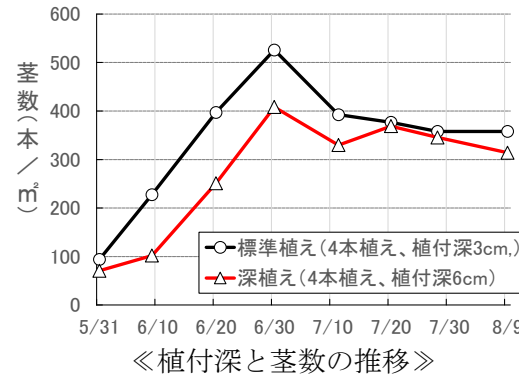
※箱施用剤を育苗ハウス内で施用する際は、ハウス内に残留しないよう注意しましょう。

(5) 補植苗の放置はいもち病の発生源となるため、すみやかに処分して下さい。

★機械作業後は泥を落としてから道路へ出ましょう！

トラクター等での農作業の際は、田や畑から公道へ出る前に必ず土を落としてから走行するようお願いします。

やむを得ず道路に土を落としてしまった場合は速やかに清掃するなど道路利用者が安全に走行できるよう心がけましょう。ご協力をお願いします。



畦畔から漏水してないか、チェックするのじゃ

2. 本田初期の水管理のポイント

(1) 保温的水管理【“やや深水管理”による発根・活着促進】

- ①田植え後は、苗が活着するまで3～4cmのやや深水としましょう。
- ②早朝にかん水し、日中は水温を高めて発根・活着を促進しましょう。

(2) 活着後の水管理【“やや深水管理”から“浅水管理”へ移行】

- ①浅水管理（水深2～3cm）により、分げつの発生を促しましょう。
- ②かん水は早朝に行い、日中は止め水により水温・地温の上昇と生育の均一化を図りましょう。
- ③特に低温時や強風時は、深水管理（4～5cm）で苗を保護しましょう。

(3) ワキ、表層剥離対策！！【根腐れによる生育抑制や除草剤の効果減少回避】

昨年秋は、ひこばえ多発と長雨により、稲わら腐熟阻害の可能性が高く、ワキや表層剥離などに注意が必要です。ワキや表層剥離が見られる場合は、一時的に落水し、ガスが抜けるまで軽く干してから再びかん水しましょう。



3. エコ・5-5用水田除草剤（移植水稻）

薬剤名		10a当使用量	使用時期（農薬登録）
初期剤	※ソルネット1キロ粒剤	1kg	①植代後～移植前7日まで、②移植直後～バエ1葉期まで(但し移植後30日まで)、③移植時
	※エリジャン	乳剤 300ml ジャンボ 300g	①植代後～移植7日前まで、②移植直後～バエ1葉期まで(但し移植後30日まで)
一発剤	カウンスルエナジー	1キロ粒剤 1kg フロアブル 500ml ジャンボ 400g	①移植時、②移植直後～バエ3.5葉期(但し、移植後30日まで) ①移植直後～バエ3.5葉期(但し、移植後30日まで)

※令和9年度に初中期一発剤の『カウンスルエナジー』は『銀河α』に変更になります！

※初期除草剤を使用する場合は、河川への流入防止や環境への配慮から、移植前処理を避けて移植時または移植後に使用するようにしましょう。

※作付品種が前年と変更になる場合、初期剤（ソルネット又はエリジャン）を散布し、前年秋の落下粒による混種を防止しましょう！（特にうるち⇒もちへの変更では必ず実施してください。）

※エコ・5-5栽培の「わたぼうし・新之助」には初期剤は使用できません。

《初期剤・一発剤散布時の注意事項》

★気温が高いと雑草の生育が早くなるので、除草剤の散布時期が遅れないようにしましょう。

粒剤	水深5cm程度で、散布後3～4日間はそのままに保ち（水を動かさない）、7日間の止水管理 ⇒その後は通常管理
フロアブルジャンボ	水深6cm程度で、散布後3～4日間はそのままに保ち（水を動かさない）、7日間の止水管理 ⇒その後は通常管理

※ 散布後4日以降に水が切れたら、静かに入水しましょう。

お問い合わせ先 ながおか営農センター ☎0120-915882 ながおか西営農センター ☎0120-915883

カウンスル® エナジー

効果的な使い方



【エコ・5-5 重点除草剤】

1. 散布は早めに行い、効果を上げましょう！

- 代かきと田植えの間は、5日以内にしましょう。
- 一発処理剤は、下記の時期に出来るだけ早く散布しましょう。
- 散布時の水深は浅い所(特に水口)でも下記の通りにしましょう。

カウンスルエナジー 処理時期の目安(移植水稻の場合)

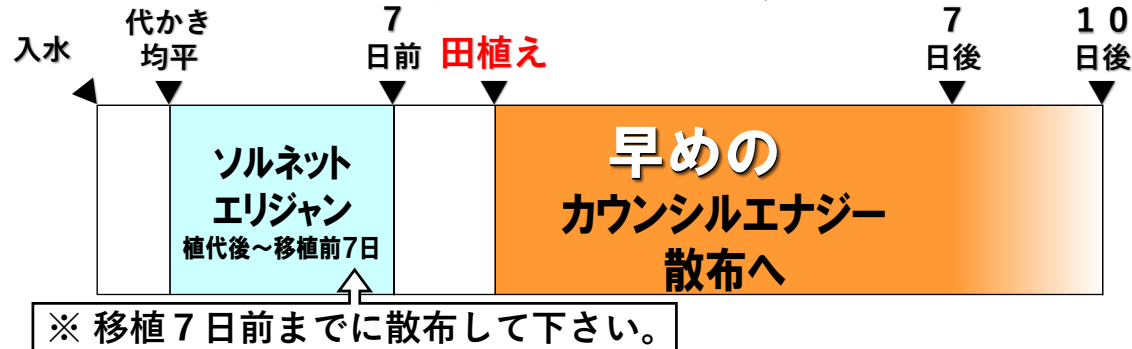
散布剤	代かき均平	田植え	7日後	10日後	散布時の水深目安
1キロ粒剤			7日後		5cm
フロアブル剤		5日以内	7日後		6cm
ジャンボ剤			7日後	10日後	6cm

※ 田植同時処理の場合 ⇒ 施用後、水深が5~6cmになるまで静かに入水して下さい。

～ 雑草で困った田んぼ ～

2. 初期剤をうまく活用しましょう(登録の範囲内で)

① 代かきから田植えまで7日以上となる田んぼの場合



② 田植え後に初期剤を処理する場合



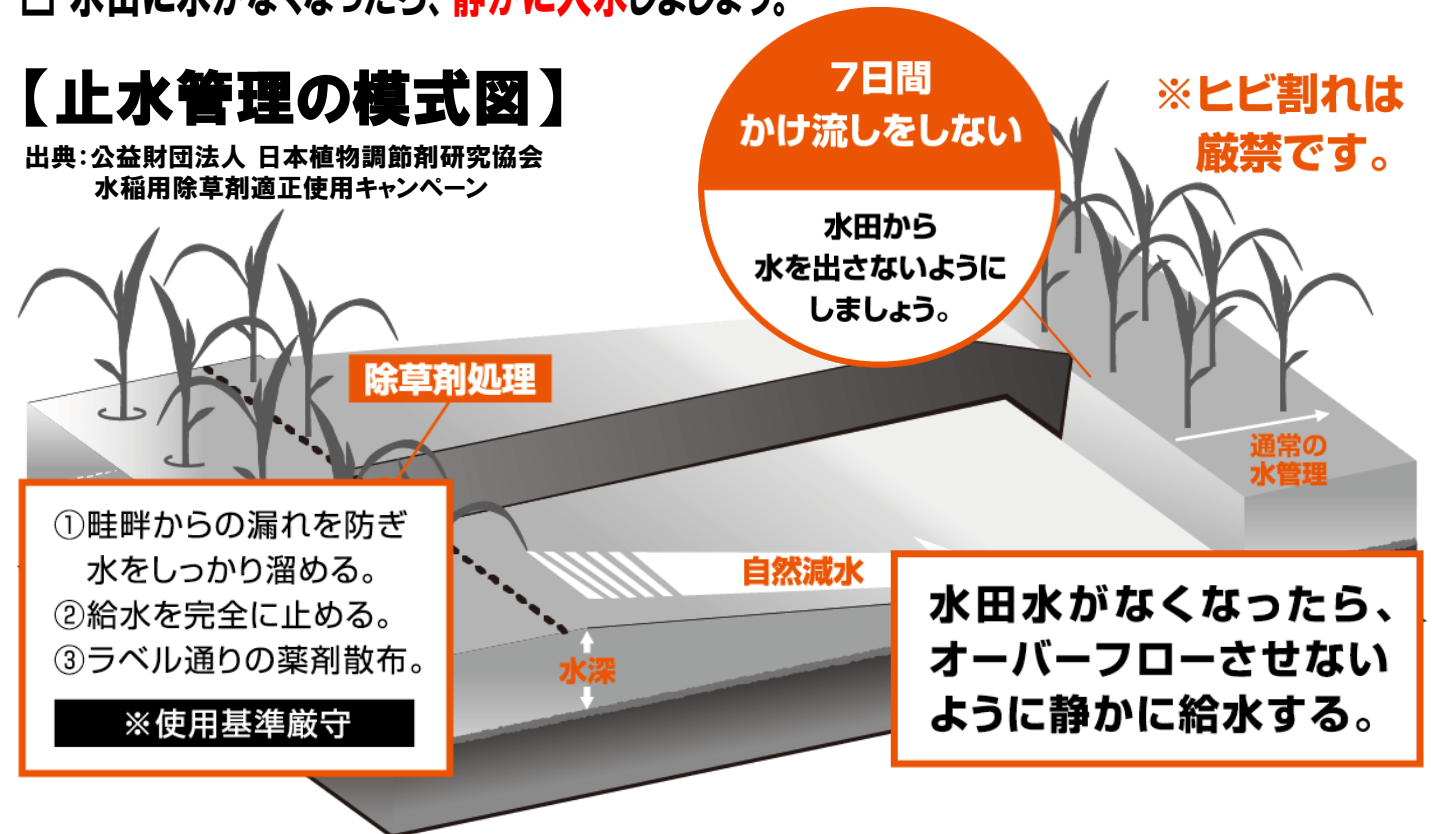
3. 7日間の止水管理

～ 除草剤処理後、水田水がなくなるまで給水しない止水管理～

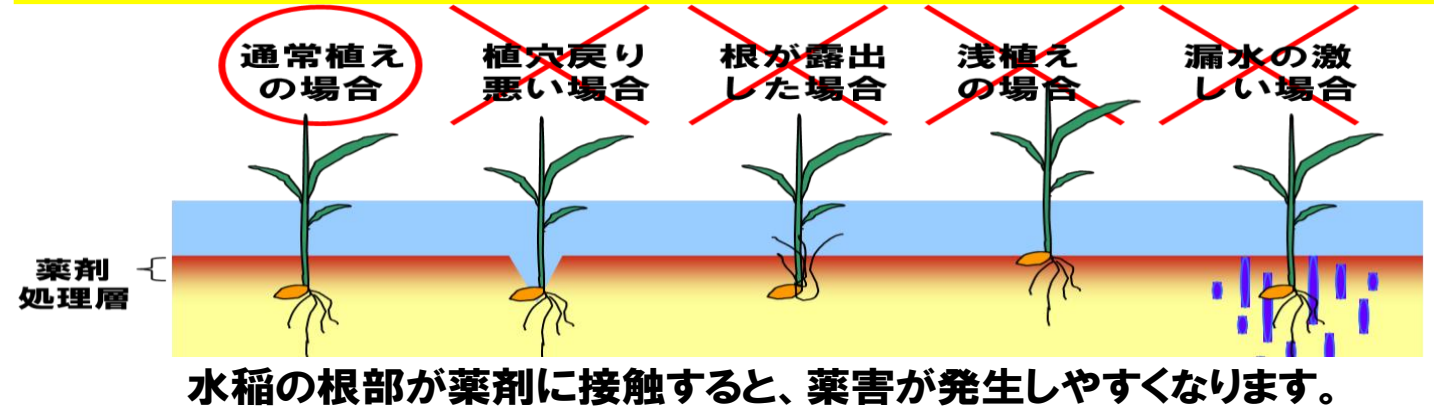
- 畦畔からの漏水(ネズミ等)・水尻側の漏水がないか確認して下さい。(畦の高さ、水尻)
- 入水する時は、湛水深をしっかりと確保して下さい。(粒剤5cm、フロアブル・ジャンボ6cm)
- 散布後3~4日間は湛水条件を保ち、7日間は止水管理をしましょう。
- 水田に水がなくなったら、静かに入水しましょう。

【止水管理の模式図】

出典:公益財団法人 日本植物調節剤研究協会
水稲用除草剤適正使用キャンペーン



4. 薬害が発生しないように心掛けましょう！



5. 極端な深植えは、ご注意ください。

植付け位置が深くなる程、埋没による「酸素不足」や、深い所は「地温が低い」為、活着が悪くなる傾向にあります。おすすめ植付け深度は「約3cm」ですが、圃場均平化や植付け状況を確認してから作業を行って下さい。